

埼玉県野球連盟南部連合会 代表者会議打合せ事項

大会は、本年度公認野球規則、競技者必携に定める規則・取り決め事項を適用して行います。

◎競技運営に関する注意事項

- 1 代表者会議で説明または決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させること。
- 2 参加申込書提出後の選手の変更・追加・背番号の変更は認めない。
- 3 ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
- 4 メンバー表提出時期について
第一試合は開始時刻の 30 分前、第二試合以降は前の試合の 4 回終了時に大会本部へメンバー表 5 部(フリガナをつける)を提出して登録名簿と照合を受け、その際、両チームの主将により攻守の決定を行う。
- 5 球場内でのフリーバッティングは認めない。練習は指定された場所で他チームの練習の邪魔にならないように行う。
練習中といえどもユニホームを着用しない者はグラウンドに出ることはできない。
- 6 次の試合のバッテリーによる球場内ブルペンの使用は自動的に許されるものではない。
- 7 ベンチ内での携帯電話・マイクの使用を禁止する。メガホンは 1 個に限り認める。
- 8 参加申込書に記載されている選手は全員必ず背番号をつけること。
(0～99 番までの算用数字であること)
監督は 30 番、主将は 10 番と統一する。
- 9 試合中ベンチに入れる人員は、登録され、ユニホームを着用した監督・選手 20 名以内とチーム責任者 1 名、スコアラー 1 名、マネージャー 1 名の 3 名以内とする。なお、責任者等が女性の場合は、スポーツ行動にふさわしい服装でベンチに入ること。
- 10 試合開始時刻前でも、前の試合が終了した後 20 分で次の試合を開始する。
- 11 試合開始時刻になっても会場(球場)に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- 12 ファールボールはベンチサイドで拾い、球審に届けること。(バックネット前は攻撃側で拾う)
- 13 守備が終わり、最後のボール保持者は、マウンドにボールを置いてベンチに戻ること。
- 14 雨天の場合でも、球場使用可能な状況の場合は試合を行う。
- 15 雨天の際、連絡はチームより積極的に行うこと。(連絡はチーム責任者のみとする)

・決定時間：午前 7 時 00 分

| 連絡先 | 球場名 | 住所 | 担当 | 携帯番号 |
|-----|------------------|--------------|----|---------------|
| 球場 | 川口市青木町公園総合運動場野球場 | 川口市西青木 4-8-1 | 山口 | 090-1840-0927 |
| 球場 | | | | |

◎用具、装具、ユニホームの取り決め事項

1 バットとボール

① バット

1本の木材で作った木製バットのほか、竹片、木片などの接合バットであること。
木製については公認制度を適用しない。

金属・ハイコン(複合)バットは、J・S・B・Bマークをつけた公認のものに限る。また、色の制限はないが単色以外の場合は連盟の承認を必要とする。

② ボール

ナガセケンコーボール M号球を使用する。

メンバー表提出時に各チームから3個ずつ提出する。(ロージンバックは各チームの負担・管理とする)

2 装具

① 捕手装具

捕手は危険防止の為、連盟公認のマスク、プロテクター、カップ、レガース、S・Gマークの付いたヘルメットを必ず着用しなければならない。

② ヘルメット

打者・次打者・走者・連盟公認(S・Gマーク付) イヤーフラップ付きのヘルメットを着帽すること。

(ベースコーチは攻撃期間中、コーチボックス内において、ヘルメットを着用しなければならない)

3 ユニホーム等

① ユニホーム

ユニホーム、帽子、ストッキング、アンダーシャツ、ベルト等は、同一チームの各プレイヤー(監督・コーチを含む)は同色、同形、同意匠のものを着用しなければならない。

② 胸マークと背番号

胸のマーク名は、日本字またはローマ字で表示し、チーム名の代わりにマークをつけることができる。ただし、統一しなければならない。

参加申込書に記載されている監督、コーチ及び選手は、必ず背番号をつけなければならない。背番号の規格は、最小限15.2CM以上。最大限 長さ 21CM

幅 16CM 太さ 4CM 以内とする。

ユニホームの背中に選手名をつける場合は、全員が背番号の上にローマ字で姓のみとする。ただし同姓の者がいる場合、名の頭を入れても良い。

◎大会特別規則

1 試合回数と時間

東日本軟式野球大会・高松宮賜杯及び南部連合会会長杯の試合は9回戦、福永健司杯及び県下選抜兼ミズノ杯の試合は7回戦とする。ただし、2時間を超えたら新しいイニングに入らない。

2 コールドゲーム

暗黒降雨の場合 5回(4回 2/3)
得点差の場合 5回以降 10点差・7回以降 7点差(9回戦)
5回以降 7点差(7回戦)

3 同点の場合について

- ① 試合が9回戦の場合は9回、7回戦の場合は7回を終了、または時間切れで同点の場合は、抽選をもって勝敗を決定する。ただし、決勝戦のみタイブレーク(継続打順で無死1塁・2塁の状態で勝敗が決するまで続行する)を行う。
- ② 同点のまま、暗黒降雨等で中断及びノーゲームになる回数の時は再試合とする。

4 抗議権

監督、主将、当該プレイヤーの内1名とする。

5 種類の異なった球を使用した場合の処置について

(例：M号ボールを使用する試合で他のボールが使用された場合)

発見されるまで行われたプレイは有効とする。ただし、プレイが進行中に発見された時は、プレイが落着いた時、正規の球と取り替えるものとする。

6 試合中の禁止事項

- ① 競技場内に素振り用バット、及びリングの持ち込みを禁止する。
- ② 投手が手首にリストバンド(サポーターなど)を使用することを禁止する。なお、負傷で手首に包帯などを巻く必要のある時は、球審の承認が必要である。
- ③ 足を高く上げてスライディングすることは、棄権防止の為、禁止する。
現実的に、これが妨害になったと審判員が認めた時は、インターフェア(守備妨害)で走者をアウトにする。
- ④ 空タッチを禁ずる
走者が進塁の時、野手が空タッチをして、妨害になったと審判員が認めた時は、オブストラクション(走塁妨害)を適用する。
- ⑤ プレイヤーが塁上に腰を下ろすことを禁じる。
- ⑥ 打者が2塁打を放ち、打撃用グローブを取り替えるためのタイムは禁止する。
- ⑦ 守備側からタイムで)試合が停止された時、その間、投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。
- ⑧ もめごとの際、審判員や相手プレイヤーに手をかけることを厳禁する。
(万一このような事態が起きた時は、退場を命じる)
- ⑨ 相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁する。
また、スタンドでの自チーム側の応援の野次もチームの責任とする。

⑩ 試合中、ベンチ前のキャッチボールを禁止する。

7 試合のスピード化に関する事項

① 投手は初回(救援を含む)に限り、1分を限度として、8球以内の準備投球が許される。次回からは4球以内とする。

② 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいるときは20秒以内に投球しなければならない。違反した場合、走者が塁にいない場合ただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一投手が2度繰り返したら、3度目はその都度ボールを宣告する。

③ 攻守交代は駆け足でスピーディーに行うこと。ただし、投手に限り、内野地域内は歩いても差し支えない。

④ 投手と捕手について

ア 投手がサインを見る時は、必ず投手板について見ることを厳重に実施すること。

イ 投球を受けた捕手は、速やかに返球すること。

ウ 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢を取ること。

エ あまりインターバルが長かったり、無用なけん制が度を過ぎるとペナルティを課すことがある。

オ 攻守交代時に正捕手が安全具を装着準備中に投球練習を受ける選手は、捕手用ヘルメット、マスクを着用してください。

カ チップしたボールが最初に捕手の体や用具に触れてはね返ったボールを捕手が地上に落ちる前に捕球した場合はストライクであり、第3ストライクの場合打者アウトとなる。

キ 投手の2塁への偽投に引き続いての送球で塁上に複数の走者がいるときに、2塁に正しく偽投し、投手板に触れたまま連続して他の塁に送球する場合は、投手板をはずさなければならない。はずさなかった場合にはボークとなる。

⑤ 打者について

ア 打者は、投手が投球位置にいるいないに関係なく、速やかにバッターボックスに入ること。

イ 次の打者は、必ず次打者席へ入り低い姿勢で待つこと。投手も必ず実行すること。

ウ 打者は、思うがままにバッターボックスを出入りすることは許されない。

- ・打者がバッターボックス内で打撃姿勢を取ろうとしなかった場合は、球審はストライクを宣言する。この場合はボールデッドとなり、いずれの走者も進塁できない。このペナルティの後、打者が正しい打撃姿勢を取れば、その後の投球はその投球によってボール・ストライクがカウントされる。打者がこのようなストライクを3回宣告されるまでに打撃姿勢を取らなかった時は、アウトが宣告される。

- ・打者は、バッターボックス内でベンチのサインを見ること。

(打者が正規に打撃姿勢を取らない時は、投手は打者に投球してはならない)

エ バット全体がフェア地域またはファウル地域に飛んで、守備の妨害になった場合について守備妨害が宣言される。

オ リストバンドの長さは15cm以下とする。(※令和4年から適用)

⑥ 内野手の転送球について

内野手間での転送球は、初回のみ1廻りとする。最後にボールを受けた野手は、定位置から速やかに投手に返球すること。なお、試合が遅れているか、天候の状況によっては、転送球をやめさせることがある。

⑦ タイムについて

- ア 監督、主将はタイムを要求しないまま、みだりにベンチを出てはならない。
- イ タイムを制限する。
- ・試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すなどのタイムは認めない。
 - ・タイムは1分間を限度とする。ただし、審判員が認めた場合はこの限りではない。
 - ・タイムはプレイヤーの要求した時ではなく、審判員が認めた時である。打者がタイムを要求する時は、投手が投球動作に入る前でなければならない。また、打者は投手が投球動作に入ったらバッターボックスを出てはならない。
- ⑧ 本塁打の打者を迎える場合は、ベンチの前のみとする。
- ⑨ 試合に出ているプレイヤーの代走が認められる場合(コーティシーランナー)
試合のスピード化を図るため、プレイヤーが負傷などで治療が長引く場合は、相手チームに伝え、試合に出ている9人の中から代走(打順の前位の者、ただし投手・捕手を抜く)を認め、試合を進行させる。
- ⑩ 試合中断中アピールについて
降雨激しく中断され、中止となる場合に限り、アピールすることができる。
- ⑪ かくし球について
走者がいる時は、球を持たない投手が、プレートのそばでサインを見るような動作をした場合は、球を持たないでプレートについたと見なし、かくし球無効でボークとなる。
- ⑫ 監督またはコーチが、同一イニングに同一投手の所へ行く回数の制限について
- ア 監督またはコーチが、同一イニングに同一投手の所へ二度行くか、行ったと見なされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手の所へ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。交代した投手は、他の守備位置につくことが許される。
- イ 監督またはコーチがプレイヤーとして出場している場合は、投手の所へ行くことの制限はないが、協議が長引けば注意を与える。なお、注意しても協議をやめないか、または投手の所へ行く数が度を越すと、投手の所へ一度行ったこととする。
- ウ 捕手を含む内野手が、一試合に投手の所へ行ける回数を9イニングの試合にあっては3度以内とする。ただし、監督またはコーチが一緒に行った場合は除く。なお、延長戦(特別延長戦も含む)となった場合は、2イニングに一度行くことができる。
- ⑬ 交代して一度退いた選手は、ウォーミングアップの相手、ベースコーチも許される。
- ⑭ 塁上の走者、及びコーチボックスやベンチから球種などを打者に知らせる為のサインを出すことを禁止する。

その他の注意事項

- 1 チーム責任者は、選手の健康管理に十分注意してください。
- 2 交通事情をよく勘案して、予定時間には、余裕を持って出発してください。
- 3 球場に到着したら、本部席に到着したことを報告してください。